



Interview

仕事人インタビュー

落ち着いて、
周りを
見渡すことで
必ず道は開けます

富川悠太さん
テレビ朝日アナウンサー



—テレビ局での仕事を
指したきっかけは？

スポーツに携わる仕事を
したいという思いがずっと
あり、スポーツキャスター
を目指していたんです。就
職活動ではテレビ局のアナ
ウンサー職を受けました。
面接でも、志望はスポーツ
だとアピールしました。む
しろ報道には苦手意識があ
り、できれば行きたくな
かったのです(笑)。
—仕事を始めてから現在
までの間、仕事への意識は

どう変化しましたか？

はじめはスポーツ実況を
担当していたのですが、
徐々に情報系やバラエティ
ーの仕事が増え、入社5年
目、報道ステーションが始
まる時からフィールドキャ
スター(リポーター)を務
めることになりました。
スタートして半年ほどは、
手探りで、「ちゃんと伝わっ
ているのかな」と不安にな
ることもありました。
そんな中、新潟中越地震
が起こり、取材に向かいま

した。「とにかく何かしたい」
と、空き時間に片付けなど
を手伝ったんです。そうし
たら、被災者の方が取材時
には聞けなかったことを
色々と話してくれて。中継
が終わると、「こっちで一緒
に飲もう」と「仲間」のよ
うに接して下さいました。
スポーツ取材で、選手た
ちと時間を共にする中で信
頼関係を築けたことを思い
出し、「これが自分の取材ス
タイルなんだ。スポーツも
報道も根幹は同じだ」と気
付きました。

それ以降、現場の生の声

やまだ社会に知られていな
いことを取材して伝えるこ
とがどんどん楽しくなって
報道にのめりこんでいきま
した。
—「伝える仕事」をする
上で心がけていることは？
フィールドキャスターだ
った頃は、視聴者の方々に
「現場」の声や空気感をど
う伝えるのかを常に考えま
した。メインキャスターに
なつてからは自分がスタジ
オ側で、周りに「現場」が
ありません。最初は、その
ギャップに悩みました。
今は、スタジオにいても

現場に近い存在であろうと
意識しています。そうする
ことで、少しでも現場目線
視聴者目線で情報を届けら
れればと思っています。

—これまでに経験した仕
事のピンチをどう切り抜
けたか、聞かせてください。
ピンチはたくさんありま
したが、特に印象に残って
いるのは、ある事件現場か
らの中継です。スタジオの
古館さんとながっている
はずが、突然、イヤホンか
ら「ぎゃはは」という笑い声
が聞こえ、スタジオからの
声がほとんど聞き取れな
くなったんです。

「大ピンチ」と一瞬、頭
が真っ白になりましたが、
身体の角度を少し変えてみ
たら、スタジオとつながり
途切れ途切れの音声を頼り
に何とか中継を乗り切る
ことができました。他局の
バラエティー番組と混線し
てしまっていたんですね。
取材や中継を重ねてきた
おかげで、ピンチに立って
いる自分を歩引いて見る
ことができ、「いつも通りに
すれば大丈夫」と、固まっ
てしまわないで済んだのだ
と思います。

失敗を恐れず どんどんチャレンジを してもらいたいです

—取材のリサーチ、番組
での発言の準備はいつ、ど
のようにしていますか？

基本的に、寝ている時以
外はすべてリサーチ、準備
の時間だと思って過ごして
います。夢も仕事の夢しか
見ないんですよ(笑)。

どんなニュースを取り上
げるか常にアンテナを張っ
て、街の人は何を思ってい
るか、できる限り話を聞く
ようにしています。ニュー
スのラインナップを決める
打ち合わせが夕方にあるの
で、それまでが勝負です。
例えば、豊洲の問題を取
り上げようと思ったら、出
社前にちょっと豊洲に寄っ
て、街の人に話を聞いてみ
たりしています。

—これからの目標をお聞
かせください。
今は、この番組をできる
限り長く続けることが目標
です。



富川悠太(とみかわ ゆうた)
1976年生まれ。横浜国立大学教育学
部を卒業後、99年テレビ朝日に入社。
報道番組などのリポーターとして、
毎日発生するニュースの現場を飛び
回り、現地から生の情報を伝えてき
た。2016年4月、『報道ステーション』
のメインキャスターに就任。

らと思っています。

—読者の若者たちへメッ
セージをお願いします。

仕事をしていると、色々
なピンチが訪れます。そん
な時こそ、落ち着いて、周
りを見渡すことで必ず道は
開けます。普段から落ち着
いて色々なことを考えてみ
る癖をつけることでピンチ
の時に、「自分らしさ」を出
せるようになると思います。
そして、成功体験を積み
重ねることで、ピンチの時
でも冷静に対応できます。
私自身、自信を持って行
動できるようにしたのは、
色々なチャレンジの中で大
失敗も大成功も経験してき
たからだと思います。みな
さんにも、平均点を指す
のではなく、失敗を恐れず
どんどんチャレンジをして
もらいたいです。

